

【今日の説教から】

いよいよ受難週に入りました。今週の金曜日は受難日です。先週は出エジプトの出来事を読みました。主は「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを、つぶさに見、また追い使う者のゆえに彼らの叫ぶのを聞いた。わたしは彼らの苦しみを知っている」と語られました。時は過ぎ、主イエス様の時代、過越の祭りの時期が来ました。今日もユダヤ人たちは過越の食事をしますが、苦菜と種入れぬパンと共に子羊の骨付きローストを食すのですが、この子羊の料理が犠牲の子羊を象徴するとのことで、民がエジプトを脱出した今日では、家の鴨居に血を塗ることまではしないようです。

イエス様は屠られる前の日の夜、最後の晚餐をしましたが、そこでパンとぶどう酒を弟子たちに与え、「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい」、そして「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である」と語られました。

私たちの主イエス様はそのお体を私たちの罪のためのいけにえとしてささげ、その血潮をもって私たちを罪と死の呪いから救い出すために、罪と死からの出エジプトを果たすために新しい契約を、その血潮をもって与えてくださいました。その御身体と血潮の捧げものによって私たちはもはや鴨居の血を捧げる必要なく死からの過越を頂くのです。この血潮がなければ私たちを罪から救うものはないのです。

リン先生のメッセージです。（リン先生と教会の方々は来週の日曜日より一つ木町に完成した新しい教会で礼拝をなさいます。）

まず、最初に、庄原市に初めて来た時に、皆さんを見つけるのを助けてくださったイエス様に感謝したいと思います。

次に、一森牧師に感謝します。

皆さんの前に立つ機会をくださったことに感謝します。

そして、皆さんにも感謝します。

2022年に初めて日本に来たときから、私を受け入れ、世話をしてくれたり、励ましてくださったことに感謝します。私は

言葉も知らず、知り合いもない状態で単身で来日しました。

皆さん全員が私の友人となり、家族となってくださいました。本当に感謝しています。

皆さんは神様が日本という国に働きかけることが出来るようにと、ご自身を差し出されま

した。

この宣教の壁をくぐり抜けてきた宣教師たち全員に、皆さんとても親切で寛大でした。

私たちちは日曜日にこの建物にいなないかもしれません、それでも私たちちは家族です。もしあなたがスーパーマーケットで私を見かけたら、遠慮せずに挨拶してくださいね。
水曜日の祈りの集まりに来れば、私に会うことができますよ。

魂が救われ、弟子が作られているのは
あなたがたがしてくださったことのおかげです。

私たちちは一緒に、クリスチャンの1パーセントを
100パーセントに変えていきましょう

彼らはまた、あなたがたの受け継ぐべき財産でもあります。なぜなら、あなたがたは私たちに親切と寛大さを示してくれたからです。
あなたがたは投資をしたのです。
その配当は、福岡、長崎、そして一つ木で見出されるでしょう。

空港や広島市内に向かう途中、あるいは帰りにでも、
たとえトイレだけだったとしても、ぜひ私たちの家にお立ち寄りください。
私はいつでも、皆さん一人ひとりにドアを開けています。

ありがとうございます。神のご加護がありますように。

リン先生の庄原での尊いお働きに、心から感謝を申し上げます。日曜日はそれぞれの礼拝へと別れますが、先生とその教会のお働きのためにお祈りしてまいりましょう。水曜日の祈祷会には変わらずにご参加くださいます。どうぞご参加ください。

さて、私たちは今週、受難週を迎えております。金曜日は受難日です。イエス様のお苦しみを心に刻みながら今日の礼拝を過ごしたいと願います。

「もしわたしたちが、彼に結びついてその死の様にひとしくなるなら、さらに、彼の復活の様にもひとしくなるであろう。 わたしたちは、この事を知っている。わたしたちの内の古

き人はキリストと共に十字架につけられた。それは、この罪のからだが滅び、わたしたちがもはや、罪の奴隸となることがないためである。それは、すでに死んだ者は、罪から解放されているからである。…罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。」 ローマ6章

聖書の中に活躍が記されています大使徒パウロもこのように嘆いています。「すなわち、わたしは、内なる人としては神の律法を喜んでいるが、わたしの肢体には別の律法があって、わたしの心の法則に対して戦いをいどみ、そして、肢体に存在する罪の法則の中に、わたしをとりこにしているのを見る。わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか。」 ローマ7章

まさに主の死と復活は、私たちが古い自分に死に、つまり罪と死との法則とによって生きていた古い自分に死に、イエス様の復活にあやかって赦しと新生の命に生きるという事です。

ヨハネ3:1 パリサイ人のひとりで、その名をニコデモというユダヤ人の指導者があった。

3:2 この人が夜イエスのもとにきて言った、「先生、わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています。神がご一緒でないなら、あなたがなさっておられるようならしは、だれにもできはしません」。

3:3 イエスは答えて言われた、「よくよくあなたに言っておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」。

3:4 ニコデモは言った、「人は年をとってから生れることが、どうしてできますか。もう一度、母の胎にはいって生れることができましょうか」。

3:5 イエスは答えられた、「よくよくあなたに言っておく。だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない」。

3:6 肉から生れる者は肉であり、霊から生れる者は霊である。

3:7 あなたがたは新しく生れなければならぬと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない。

3:8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生れる者もみな、それと同じである」。

3:9 ニコデモはイエスに答えて言った、「どうして、そんなことがありますか」。

3:10 イエスは彼に答えて言われた、「あなたはイスラエルの教師でありながら、これぐらいのことがわからないのか」。

3:11 よくよく言っておく。わたしたちは自分の知っていることを語り、また自分の見たことをあかししているのに、あなたがたはわたしたちのあかしを受けいれない。

3:12 わたしが地上のことを語っているのに、あなたがたが信じないならば、天上のことを

語った場合、どうしてそれを信じるだろうか。

3:13 天から下ってきた者、すなわち人の子のほかには、だれも天に上った者はない。

3:14 そして、ちょうどモーセが荒野でへびを上げたように、人の子もまた上げられなければならない。

3:15 それは彼を信じる者が、すべて永遠の命を得るためにである」。

3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためにである。

3:17 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。

律法の教師は、選民イスラエルは神様の定めてくださった律法を守ることによって救われると信じていましたが、聖書には義人はいない、一人もいないと記しています。

ローマ 3:10 次のように書いてある、／「義人はいない、ひとりもいない。

3:11 悟りのある人はいない、／神を求める人はいない。

3:12 すべての人は迷い出て、／ことごとく無益なものになっている。善を行う者はいない、／ひとりもいない。

3:13 彼らののどは、開いた墓であり、／彼らは、その舌で人を欺き、／彼らのくちびるには、まむしの毒があり、

3:14 彼らの口は、のろいと苦い言葉とで満ちている。

3:15 彼らの足は、血を流すのに速く、

3:16 彼らの道には、破壊と悲惨がある。

3:17 そして、彼らは平和の道を知らない。

3:18 彼らの目の前には、神に対する恐れがない」。

3:19 さて、わたしたちが知っているように、すべて律法の言うところは、律法のもとにいる者たちに対して語られている。それは、すべての口がふさがれ、全世界が神のさばきに服するためである。

3:20 なぜなら、律法を行うことによっては、すべての人間は神の前に義とせられないからである。律法によっては、罪の自覚が生じるのみである。

3:21 しかし今や、神の義が、律法とは別に、しかも律法と預言者とによってあかしされて、現された。

3:22 それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。そこにはなんらの差別もない。

3:23 すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなつており、

3:24 彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義と

されるのである。

詩編 51:16 あなたはいけにえを好まれません。たといわたしが燔祭をささげても／あなたは喜ばれないでしょう。

51:17 神の受けられるいけにえは碎けた魂です。神よ、あなたは碎けた悔いた心を／からしめられません。

ヤコブ 2:12 だから、自由の律法によってさばかるべき者らしく語り、かつ行いなさい。

2:13 あわれみを行わなかった者に対しては、仮借のないさばきが下される。あわれみは、さばきにうち勝つ。

出エジプトの神様の奇跡。それは神様がつぶさに民の悩みを見て、叫び声を聞かれた結果でした。

出エジプト 3:7 主はまた言られた、「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを、つぶさに見、また追い使う者のゆえに彼らの叫ぶのを聞いた。わたしは彼らの苦しみを知っている。」

3:8 わたしは下って、彼らをエジプトびとの手から救い出し、これをかの地から導き上って、良い広い地、乳と蜜の流れる地、すなわちカナンびと、ヘテびと、アモリびと、ペリジびと、ヒビびと、エブスびとのおる所に至らせようとしている。

3:9 いまイスラエルの人々の叫びがわたしに届いた。わたしはまたエジプトびとが彼らをしえたげる、そのしえたげを見た。

3:10 さあ、わたしは、あなたをパロにつかわして、わたしの民、イスラエルの人々をエジプトから導き出させよう」。

第一番目から九番目まではエジプトの国土を打つ神様の警告の御業でした。しかし第十番目の初子の死は、そのまま何もしなければ、エジプトの中にいる神の民をも打つものでした。ここにそこはかとない恐ろしさを感じます。

ローマ 6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

ローマ 3:21 しかし今や、神の義が、律法とは別に、しかも律法と預言者とによってあかしされて、現された。

3:22 それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与

えられるものである。そこにはなんらの差別もない。

3:23 すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなつており、

3:24 彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。

3:25 神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもつて受くべきあがないの供え物とされた。それは神の義を示すためであった。すなわち、今までに犯された罪を、神は忍耐をもつて見のがしておられたが、

3:26 それは、今の時に、神の義を示すためであった。こうして、神みずからが義となり、さらに、イエスを信じる者を義とされるのである。

ユダヤの民は現在も過越の祭りをします。彼らは苦菜を食べ、種入れぬパンを食べます。そして子羊を象徴して骨付きの子羊の肉のローストを食するようです。

もはや出エジプトは完了したのだから、鴨居に血を塗る必要はない。それはもう過ぎ越されたのだから。しかし本当にそうなのでしょうか。本当に私たちはキリストの血潮なしに、律法の行いによって救われるのでしょうか。

イエス様は律法ではできないことを成してくださったとローマ8章に書いてあります。

8:1 こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。

8:2 なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御靈の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。

8:3 律法が肉により無力になっているためになし得なかつた事を、神はなし遂げて下さつた。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。

8:4 これは律法の要求が、肉によらず靈によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。

8:5 なぜなら、肉に従う者は肉のことを思い、靈に従う者は靈のことを思うからである。

8:6 肉の思いは死であるが、靈の思いは、いのちと平安とである。

聖書は、人の律法に従おうとする熱意もむなしく、ただキリストによる贖いによる新しい命、靈によって導かれ行かれる歩みこそが大切であることを語っています。

キリストこそがまことの出エジプト。罪と死と呪いから私たちを救い出すのはイエス様による身代わりの死による新しい契約の実であることを私たちは教えられます。

ルカ 22:7 さて、過越の小羊をほふるべき除酵祭の日がきたので、

22:8 イエスはペテロとヨハネとを使いに出して言われた、「行って、過越の食事ができる

ように準備をしなさい」。

22:9 彼らは言った、「どこに準備をしたらよいのですか」。

22:10 イエスは言われた、「市内にはいったら、水がめを持っている男に会うであろう。

その人がはいる家までついて行って、

22:11 その家の主人に言いなさい、『弟子たちと一緒に過越の食事をする座敷はどこか、と先生が言っておられます』。

22:12 すると、その主人は席の整えられた二階の広間を見せてくれるから、そこに用意をしなさい」。

22:13 弟子たちは出て行ってみると、イエスが言われたとおりであったので、過越の食事の用意をした。

不思議な不思議なことですが、弟子たちのために過越の食事の場が備えられていました。これは神様がすべてイエス様によって私たちのために、私たちが何の用意をしてもいいのに、神様ご自身が贅いをご用意くださったという、一方的な恵みを表しているのではないでしょうか。

22:14 時間になったので、イエスは食卓につかれ、使徒たちも共に席についた。

22:15 イエスは彼らに言われた、「わたしは苦しみを受ける前に、あなたがたとこの過越の食事をしようと、切に望んでいた」。

22:16 あなたがたに言って置くが、神の国で過越が成就する時までは、わたしは二度と、この過越の食事をすることはない」。

22:17 そして杯を取り、感謝して言われた、「これを取って、互に分けて飲め」。

22:18 あなたがたに言っておくが、今からのち神の国が来るまでは、わたしはぶどうの実から造ったものを、いっさい飲まない」。

22:19 またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行きなさい」。

22:20 食事ののち、杯も同じ様にして言われた、「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である」。

イエス様は、「わたしは苦しみを受ける前に、あなたがたとこの過越の食事をしようと、切に望んでいた」と語られました。イエス様がこれからお受けになられる苦しみは、人々を罪と死と呪いから解放する新しい出エジプトの出来事であることをイエス様は弟子たちに伝

えたいと思っておられたのでしょう。敵の手にかかるてむごたらしく処分されてしまったのではない。イエス様は進んで、世の罪を取り除く神の子羊として、贖いのために、命を死から守るための過ぎ越しのいけにえとしてご自身の身と血潮とをおさげになられたのだという事を弟子たちが信じることが出来るように、イエス様はご自分の十字架の意味を弟子たちに語られました。

22:21 しかし、そこに、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に食卓に手を置いている。

22:22 人の子は定められたとおりに、去って行く。しかし人の子を裏切るその人は、わざわいである」。

22:23 弟子たちは、自分たちのうちだれが、そんな事をしようとしているのだろうと、互に論じはじめた。

22:24 それから、自分たちの中でだれがいちばん偉いだろうかと言って、争論が彼らの間に、起った。

イエス様は、裏切るものについて語られました。弟子たちの間に犯人探しが始まりました。そしてこともあるうか、その論争はどうしたことか、イエス様亡き後の弟子たちの序列争いの場に変化しました。何という浅ましい人たちなのでしょうか。イエス様がそこまでご自身の身を碎いて、血を注ぎだし、命を注ぎだしてご自分の民を死から命へと導こうと犠牲を払おうとしておられるのに、弟子たちは誰が上でだれが下だとかという順位争いに明け暮れているのです。イエス様はどう思われたでしょうか。たとえ彼らが主を裏切るイスカリオテのユダではなかったとしても、我が割き、我が先と人を押しのけようとする彼らの心のうちにもイエス様を思う心はユダ同然にないに等しいものであったのではないか。本当にがく然とする思いです。この軽薄さは、彼らの中だけに見いだされるものではありません。私たちの心のうちにも厳然と存在するものです。自分が良ければそれでいい、他者なんて二の次。そういう自己保存の法則も、自分を守るために役に立つこともあるでしょう。しかしこの考えはイエス様のお考えとは正反対のものです。

22:25 そこでイエスが言わされた、「異邦の王たちはその民の上に君臨し、また、権力をふるっている者たちは恩人と呼ばれる。

22:26 しかし、あなたがたは、そうであってはならない。かえって、あなたがたの中でいちばん偉い人はいちばん若い者のように、指導する人は仕える者になるべきである。

22:27 食卓につく人と給仕する者と、どちらが偉いのか。食卓につく人の方ではないか。しかし、わたしはあなたがたの中で、給仕をする者のようにしている。

22:28 あなたがたは、わたしの試練のあいだ、わたしと一緒に最後まで忍んでくれた人た

ちである。

22:29 それで、わたしの父が国の支配をわたしにゆだねてくださったように、わたしもそれをあなたがたにゆだね、

22:30 わたしの国で食卓について飲み食いをさせ、また位に座してイスラエルの十二の部族をさばかせるであろう。

22:31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

イエス様は優しく教え、いかにご自身が仕える者、謙遜な者、忍耐強いものとして弟子たちをこよなく愛してこられたかを語られ、弟子たちを讃め、将来の希望と約束をお語りになられ、また彼らの挫折、そして赦しとその回復までをお語りになられました。ここには神様の透徹した眼差しと愛とが語られています。条件付きの愛でもない、失格したらそれでお払い箱でもない、変わることのない、無償の愛が語られています。サタンはいかに私たちが失格者であるかを如実に表そうとしますが、私たちの失敗が明らかになればなるほど、神様の赦しの愛ははっきりと明らかになります。

「しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」

これが私たちの交わりの原点です。正しいものはだれ一人としておらず、しかし唯々主の憐れみによって贖われ、赦されているものがあるだけです。立ち直ったら、まだ頽れている(くずおれている)友のために奉仕する。そうして先の者が後になり、あの者が先になり、仕え合って、助け合って、弱い者同士が助け合う。これが私たちの交わりの本質です。イエス様がその模範を示してくださいました。

22:33 シモンが言った、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。

22:34 するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言っておく。きょう、鶏が泣くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。

マタイ 26:41 「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである」。

ペテロの暑い思いとは裏腹に、彼は完膚なきまでに破綻してしまいます。彼の言葉とは裏腹に、彼は散々に主を否み、懺悔の念に押しつぶされそうになって大泣きするのです。それが

人間です。その弱さを主は知っておられます。弱いものだからこそ。意地を張ったり、戦いあったり足を引っ張ったりせずに助け合い、仕え合い、引き立て合う。この生き方を主は身をもって教えてくださったのです。その神様の愛のメッセージを深く味わい、その命によつて生かされるために、心を捧げて主を礼拝する日々を過ごしたいと願うのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。

民を苦役の中から救い出すため神様は出エジプトの奇跡を成してくださいました。十番目の奇跡は初子の命を取るという恐ろしいものでした。それは神の民を苦しめる民も、神の民の命をも共に脅かすものでした。それはさながら人類すべての生まれつきの罪は選民も異邦人も変わらないことを示すものでした。そのために子羊の血が鴨居に塗られましたが、時至って神様は御子イエスキリストの血潮をもって新しい契約を与え、人類に救いと命を与えてくださいました。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン